

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	トイズボンド布袋		
○保護者評価実施期間	令和8年1月10日		～ 令和8年1月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	令和8年1月26日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月6日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	① 多角的アセスメントと個別化支援 コミュニケーション、日常生活スキル、社会性、運動スキルの各観点を統合した多角的アセスメントに基づき、子ども一人ひとりの特性に即した個別化支援を計画・実施している。	・アセスメントを行い、標準化ツールと行動観察、保護者面談を組み合わせてベースラインを把握している。 ・日々の支援記録は当日中に入力、定期的に分析を行い、支援の質を継続的に高めている。	・検査の目的・対象・所要時間・返却方法を1枚にまとめた検査ガイドを作成し面談・教室通信等で定期的に案内を行う。
2	② 研修体制 グループ内の研修で障がい特性に加え、法令やメンタルヘルスも継続的に学べる環境がある。	・グループ内の実地研修とオンライン研修を併用し、月2回以上の研修に参加している。 ・発達障害外来で使う検査の大半を本社で実施できる体制になっている。	・年間研修計画を「障害の基礎知識/法令/メンタルヘルスケア/管理者研修」の4領域で編成し、研修→現場転移をセットで定着化。 ・困った時の専門家への相談ラインを確保。早期にヒアリング、ケース検討の仕組みを確立する。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	特定の職員に業務が偏りすぎる傾向がある。 業務配分の見直しが必要である。	・業務内容が均等でない。 ・役割と責任範囲の文書化が不十分で、代替要員や引継ぎ手順が整っていない。	・業務の棚卸しを行い、担当・代替・期限を明記した表と標準手順を整備する。
2	保護者参加型のイベントや保護者会の実施が現状では行われていない。今後は職員間で協議を重ね、企画・実施に向け具体的な検討を進める。	・就労家庭が多く、平日夕方のみだと参加が難しい(時間帯・移動の制約)。 ・目的(家族支援・情報提供・交流)の価値が伝わりにくい。 ・児童発達支援の利用者が少ない。	・参加形態を複線化：夜間枠(例：19:30～20:00)、土曜午前枠(例：11:00～11:30)教室参加とオンライン参加のいずれかを選べるようにする。参加できなかった保護者へ、後日内容を共有できる仕組みを設ける。 ・テーマはガイドライン準拠(例：ペアトレ/合理的配慮/家庭での見立て)。 ・きょうだい配慮：同時間帯に簡単な活動を設定し同伴可とする。
3	地域との交流機会が少ない。	・受け入れ先の開拓と安全管理が未整備。 ・交流の目的(社会性の一般化・余暇拡大等)と評価方法が不明確で、効果検証につながりにくい。	・児童館・図書館・商店会・学校等との定例交流を計画し、連絡体制や安全配慮、リスクアセスメントを標準化。 ・地域交流に積極的に参加する。